



平成 29 年 5 月 10 日

各 位

会 社 名 サンケン電気株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 和田 節
 コード番号 6707 (東証 市場第一部)
 問 合 せ 先 執行役員
 財務 IR 統括部長 村野 泰史
 T E L (048)487-6121

通期業績予想と実績値との差異並びに剰余金の配当（復配・記念配）に関するお知らせ

平成 28 年 5 月 9 日に公表いたしました平成 29 年 3 月期の通期連結業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。また、本日開催の当社取締役会におきまして、平成 29 年 3 月 31 日を基準日とする剰余金の配当に関する決定をいたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想と実績値との差異

(1) 通期連結業績予想と実績値との差異（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) 平成 28 年 5 月 9 日公表	百万円 156,000	百万円 7,000	百万円 5,500	百万円 2,500	円 銭 20.62
今回実績(B)	158,772	5,930	5,026	1,739	14.35
増減額(B-A)	2,772	△1,069	△473	△760	—
増減率(%)	1.8%	△15.3%	△8.6%	△30.4	—
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期)	155,919	6,803	3,791	171	1.41

(2) 差異の理由

当連結会計年度の業績につきましては、P S 事業において通信市場及び新エネルギー市場向け製品の販売が低迷いたしました。半導体デバイス事業において白物家電や自動車向け製品の販売が好調に推移したことから、業績予想と比べ連結売上高は増加いたしました。しかしながら、損益面につきましては、上記 P S 事業における販売低迷に加え、半導体前工程の拠点であるポーラー・セミコンダクターにおいて工程改善に伴う生産調整を実施したことなどから減少いたしました。これらの結果、上記の通り業績予想と実績値との間に差異が発生いたしました。

2. 剰余金の配当

(1) 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (平成 28 年 5 月 9 日公表)	前期実績 (平成 28 年 3 月期)
基 準 日	平成 29 年 3 月 31 日	同左	平成 28 年 3 月 31 日
1 株当たり配当金	3 円 50 銭 (普通配当 3 円 00 銭) (記念配当 0 円 50 銭)	未定	0 円 00 銭
配当金の総額	424 百万円	—	—
効力発生日	平成 29 年 6 月 26 日	—	—
配 当 原 資	利益剰余金	—	—

(2) 理由

当社では、かねてより、株主の皆様への利益還元を経営上の最重要施策の一つと位置付け、将来に向けての事業展開と財務体質改善を進め、経営全般の基盤強化を図る上で必要となる内部留保を確保しつつ、収益力の向上を通じて、安定的かつ着実な配当を実施することを基本的な考え方としております。

当期業績においては、前期に比べ営業外損益が改善し特別損失も減少したことから、配当原資となる本社個別の純資産が増加いたしました。かかる前提の改善を踏まえ、今後の経営環境に関する見通し等を勘案し、更には従来同様に内部留保の確保に意を用いた上で、復配が可能と判断いたしました。

その結果、当期の期末配当につきましては、普通配当を1株 3.00 円とし、また当社は昨年9月に創立 70 周年を迎えましたことから、普通配当に 70 周年記念配当として 0.50 円を加え、合わせて1株につき 3.50 円として、復配することといたしました。

(ご参考) 年間配当の内訳

基準日	1株当たり配当金(円)		
	第2四半期	期末	年間
前期実績	3円50銭	—	3円50銭
当期実績	—	3円50銭	3円50銭

以上

※ 上記の業績予想数値等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。